



おお い ちょう
大 銀 杏

喜多方市立慶徳小学校 学校だより
令和3年12月10日(金) 第47号
発行責任者 校長 石田 秀喜

【スローガン】 育てよう夢 伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子



「スマホ」と「ナイフ」



本年度から、国のGIGAスクール構想に基づいて、「1人1台タブレット配置」が実現しました。本校でも、授業中や見学学習等、いろいろな場面で活用を図っているところです。一方で、タブレットの家庭への持ち帰りに伴って、目的外使用やネットを通じた誹謗中傷事案が、他市町村で起きているとのニュースもあります。こうした危険性があるということで、先生方や保護者の皆さんの中に、「持ち帰り」やタブレットそのものの利用に消極的な考えをもつ方も少なからず出てきています。

また、最近のニュースで気になることの一つに、刃物を使っての犯罪・事件の頻発です。京王線17人死傷事件や、17歳少年が下校途中の小4女児を刃物で襲う事件など、家庭内殺人も含め、最近、ナイフや包丁を使っての事件が続いています。

本来、便利なツールであるスマホ・タブレットやナイフも、使い方を誤れば、この上なく危険なものになるということです。それぞれについて、その便利さとともに正しい使い方をしっかり分からせることが大切です。問題は、便利さや正しい使い方を分かっても、時にまちがった使い方をし、結果的に「加害者」になってしまうということです。

SNSでいじめをしたりゲーム依存になっていたりする子どもたち、無差別に人に刃物を向けていく人たち。彼らは、程度の差こそあれ、現実の生活の中で、不安や不満、疎外感を募らせているのではないかと。理由はどうあれ、許されることではありませんが。

「リア充」という言葉があります。リアルな現実世界が充実している状態という意味があるようですが、自己存在感や自己肯定感が持てていたり、生身の人たちとの豊かな人間関係があれば、バーチャルな世界にのめり込んだり、猟奇的な犯罪に進むことはある程度避けられるのではないかと。そんな簡単なことではないと思いつつ、そんなことを考える今日この頃です。

「書き初め教室」を実施！！



7日(火)、8日(水)の2日間にかけて、初の試みとして、書き初め教室を実施しました。本校では県の書き初めコン

クールには希望参加としていますが、全員にその経験をさせたいとの考えで、3年生以上を対象に実施しました。

実施にあたっては、コミュニティースクールの学習支援事業の一環として、慶徳公民館さんのご支援をいただき、講師も、日頃公民館でも書道教室を主宰されている小松山先生においでいただきました。

子どもたちは、小松山先生のご指導のもと、真剣な表情で条幅紙に向かっていました。

